「赤川浩爾先生を偲んで」

M⑨　永島忠男

卒業研究は、赤川先生の温厚なお人柄にひかれ第 6 講座「蒸気工学」を選んだ。我々の回生は、第 6 講座に人気があり 46 名中 9 名と一番多かった。

卒業研究は、古い赤レンガ建屋の中の自然循環実験装置での「ボイラーの水循環速度と蒸気量の関係」を 3 人で行った。あまり出来の良くない学生であったが、先生が、1988 年発行された論文集の一部、並びに 2007 年発行された「気液二相流研究と関連技術」では、表紙に卒業研究で描いた装置が記載されており、少しは、先生の研究のお役に立ったかなと思っております。

当時先生は、荒れたテニスコートで、濃緑のジャンバー姿で、よくテニスをやられていたことを思い出します。

卒業後は、退官記念会、機械クラブ行事でお目にかかった程度でしたが、平成 18 年先生が叙勲された時に、機械クラブ会長をしておりました関係で、坂口先生のご提案で、機械クラブの講演会行事として「名誉教授は語る」を新しく企画し、第 1 号の講演をお願いに、坂口先生と先生宅をご訪問しました。先生宅へ行きましたのは、学生時代に先生が、ご病気でお休みの中を卒研のご指導を受けにお邪魔して以来でしたが、快くお引き受け戴きました。講演会は、「機械工学科の発展と共に過ごした 40 年と気液二相流研究の楽しい思い出から」と題して、平成 19 年 5 月約 100 名が集まり開催され、講演会後の懇親会も先生を囲み大いに盛り上がりました。

また最後にお目にかかったのは、病気でお倒れになったあと、夙川の施設にお見舞いに行きました時です。その時も良く覚えて戴いており、いろいろとお話させて戴いたのが懐かしく思います。

なんの恩返しもできておりませんが、心からご冥福をお祈り申し上げます。

（終）